

2017年2月28日

「機械設計・機械技術史国際会議 2017」論文原稿執筆要綱

1. 原稿体裁

- 1) 原稿はA4判用紙を使用し、ワープロ・パソコン等で作成する。
- 2) 原稿の枚数は、図・表・写真を含め、最小4ページ、最大6ページまでとする（7ページ以上にわたる場合は、1ページあたり5000円を追加徴収します）。
- 3) 用紙の上・下・左・右の余白は、すべて25mmとする。
- 4) 1ページは40行、1行40字、横書き、1段組みで作成する。
- 5) 原稿はそのまま写真製版するため、印字・図・表・写真の濃度に留意する。
- 6) 印刷出力した原稿を提出する場合は、各ページ右上余白部に執筆者名、ページ/総ページを鉛筆で記入する。電子ファイル形式で提出の際は、それらの記入は不要になる。

2. 主題・副題・所属の記入

- 1) 主題・副題・氏名・所属名は1ページの最初に記入する（割付見本参照）。
- 2) フォントの大きさは、主題・副題は12ポイント、氏名・所属名は10.5ポイント、いずれも標準字体で中央揃えとする。

3. アブストラクト・キーワード

- 1) アブストラクトは全体で300ワード以内とし、10ポイントのTimes系フォントを使い、標準字体で作成する。強調したい部分はゴシック体や太字、斜体字を使ってもよい。
- 2) キーワードは関連する分野について、7ワード以内で記載する。

4. 本文

- 1) 本文は10.5ポイントの明朝系フォントを使用し、標準字体で作成する。強調したい部分はゴシック体や太字、斜体字を使ってもよい。
- 2) 本文中に英文やローマ字を記載するときは、10.5ポイントのTimes系フォントを使用し、標準字体とする。強調したい部分はゴシック体や太字、斜体字を使用してもよい。

5. 文献

参考文献・引用文献は本文中の該当箇所に肩付き数字¹⁾₂₎を記入し、本文末尾に次のようにまとめる。

- 1) 学会誌・論文集・雑誌の場合
著者1, 著者2, … : 論題, 雑誌名, 巻一号 (西暦発行年), ページ始め-ページ終り.
- 2) 書籍の場合
著者1, 著者2, … : 書籍名, 巻, 発行所, (西暦発行年), ページ始め-ページ終り.
- 3) 英文雑誌、書籍の場合
上記と同様に記載するが、論題だけは斜体を使う。

6. 図・表・写真

- 1) それぞれに10.5ポイントのフォントを使用し、番号とタイトルを付ける。
〈例〉 図1 Stephensonの蒸気機関車, 〈例〉 表1 自動織機の製作年代, 〈例〉 写真1 蒸気機関車館全景
- 2) 図・表・写真は最大で247mm×160mmとし、原稿最後のページにまとめて貼り込む。

7. 原稿提出

- 1) 図・表・写真が貼り込まれたPDF形式の原稿を電子メールに添付し、決められた期日までに提出する。
電子メールに添付できないときは、CD-ROM・USBメモリーなどに保存し郵送する。印刷出力したものを送付するときは、原稿が折れ曲がらないように配慮する。
- 2) 提出原稿は到着後に査読を開始するため、内容変更は一切認めない。
- 3) 原稿提出期限は**2017年4月30日(日)**: 必着。提出が遅れると国際会議論文集には掲載しない。
- 4) 原稿は下記まで、電子メール添付あるいは郵送のいずれかの方法で送付する。

〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1 茨城大学 教育学部 技術教育教室 堤 一郎 宛

E-mail ichiro.tsutsumi.mechanics@vc.ibaraki.ac.jp

Tel/Fax (029) 228-8271 (Faxによる提出は受付けない)

- 5) 送付された原稿の査読は編集委員会でおこない、結果は改めて投稿者あてに連絡する。

8. 講演発表

- 1) 発表はパワーポイントを主体とし、書画カメラ等も使用可とする。書画カメラの場合、文字の大きさと図・表・写真の鮮明さに留意する。
- 2) パワーポイントを使用する場合、講演者が必ずパソコンを持参すること。
- 3) 講演時間は1件につき発表時間20分、質疑応答時間10分の計30分とする。

9. 割付見本

A4判用紙		(電子版原稿では不要→)技術史郎 1/総ページ		
		上 余白 25mm		
左 余白 25mm		右 余白 25mm		○○○○についての技術史教育的研究 (12ポイント)
				—△△△△の試作例— (12ポイント)
				(1行あける) (12ポイント)
				英文概要
				キーワード
				(1行あける) (10.5ポイント)
				登壇者→○ 技術史郎 (◇◇大学) (以下10.5ポイント)
				千葉健仁 (◆◆会社)
				・・・ (以下同様) ・・・
				(1行あける)
→ 本文書き出し。				
第1ページは1行40字×34行 程度×横書き1段組				
第2ページ以降は1行40字×40行×横書き1段組				
主題と副題は12ポイント。中央揃えとする。				
副題の前後は — (全角のマイナス) を付ける。				
著者は10.5ポイント。登壇者を筆頭にして○印を付ける。				
本文は10.5ポイント。				
1枚の図・表・写真が247×150mmを超えるときは、別紙で配布する。なるべく鮮明に縮小して貼り込むことが望ましい。				
(表のタイトルは表の上部)				
表1 自動織機の製作年代と性能				
図・表・写真は最後のページに まとめて貼り込んでもよい				
(図1 Stephensonの蒸気機関車 (図・写真のタイトルはその下部)				
文 献				
1) 技術史郎, 吹田花子: 技術文化史の萌芽, 日本技術史教育学会誌, 12-1 (2005), 31-36.				
2) 千葉健仁, 教育五郎: 文明のあけぼの, 3巻, LLP 技術史出版会, (2007), 7-8.				
		下 余白 25mm		